

## ベネズエラの最新動向(6月1日~6月15日)

### I. 政治・経済

#### 1. チャベス大統領がIMF脱退を保留すると発表

- 6月6日、チャベス大統領はIMF脱退を保留すると発表した。大統領は4月、IMF及び世銀から脱退する意向を表明していたが、その後実際に脱退に向けた動きは見られなかった。
- チャベス大統領は、脱退の方向性は変わらないとした上で、「ベネズエラ経済及び国債へのテクニカルな影響等もあり、脱退を即座に実施する必要はない。実際問題ベネズエラはIMFや世銀とは全く関係がない。」と説明した。
- IMFからの脱退は、ベネズエラ外債のテクニカル・デフォルトに該当するため、大統領による脱退の意向表明は多くの市場関係者、投資家の懸念を呼んでいた。
- 本発言により脱退が早期に実現する可能性は低下したものの、専門家の間では脱退の方向性は変わらないとの大統領発言に着目し、引き続き今後の関連動向を注視すべきとの指摘もある。

#### 2. ベネズエラ国内の物価統制等の影響でコロンビアからの肉類の輸入が約2倍に増大

- 6月5日付けのコロンビア当局の発表によると、コロンビアの第1四半期のベネズエラ向け輸出額は年率で65%増加、この肉類の輸出<sup>1</sup>が約2倍に増大した。
- ベネズエラ政府はインフレ抑制対策として食料品等の価格を統制しているが、これが原価以下での販売を嫌う業者の売り惜しみに繋がり、特に牛肉を中心とした肉類、卵、牛乳等の品不足が国内で問題となっている。
- これに伴い、ベネズエラではコロンビア産肉牛を始め、近隣諸国からの食料品等の輸入が増大傾向にある。
- なお、ベネズエラにおける農地の接収も、食料品の国内原価の高騰と、輸入増加への圧力となっているとの指摘もある。

#### 3. カーン基幹産業鉱業大臣が鉄鋼最大手Sidorの国有化は実施しないと発表

- 6月15日、ベネズエラのカーン基幹産業鉱業大臣は、政府が鉄鋼最大手Sidorを国有化する計画は無くなった、と述べた。
- チャベス大統領は5月3日、同社が輸出を優先させ、鉄鋼の国内供給が十分でないと批判。このような「不謹慎な」経営慣行を変更しなければ同社を国有化する、と発表していた。
- カーン大臣の説明によると、Sidorは国内の鉄鋼需要を国際価格と同等またはそれ以下の販売価格にて充足する方向で政府と基本合意。政府はSidor株の買い増し、もしくは全株の買収を検討し

<sup>1</sup> コロンビアのベネズエラ向け2大輸出品目は自動車及び肉類となっており、同国向け全輸出額の40%を占める。

ていた由だが、何れも実施されない見通しとなった。具体的な国内の鉄鋼販売価格等については 6 月 22 日までに政府・Sidor 間で合意の予定。

## II. 外交

### 1. 「Banco del Sur」創設にかかる協議がアルゼンチンにて開催される

- 6 月 11 日、12 日の 2 日間にわたりアルゼンチンのブエノスアイレスにおいて、南米の地域開発金融機関「Banco del Sur」創設にかかる協議が行われた。
- 協議にはベネズエラ、アルゼンチンの他、ボリビア、ブラジル、エクアドル、パラグアイの代表者が参加。これら 6 カ国が創設メンバーとなり、6 月末に同金融機関を立ち上げることで合意した。
- 各国の代表者はまた、「Banco del Sur」創設にかかる合意文書の草案を起草。同機関を、南米諸国の経済社会開発のための融資を目的とする国際公法に基づく金融機関、と定義した。
- 出資金については、当初各国が外貨準備高の約 10%を出資する案もあったが、各国同額とすることで合意された模様。

以上

本レポートは発表時の最新情報に基づいて作成されておりますが、情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、レポートの内容は今後予告なしに変更されることがあります。予めご了承下さい。